

# 第四回関東保育協議大会記

第四回関東保育協議大会は六月一日二日三日の三日間千葉県成田幼稚園を会場として、文部省玉越事務官、厚生省土村事務官、千葉県教育委員長、千葉県民生部長をはじめ多数の来賓臨席のもとに、関東一部六県の会員五百名以上の参加を得て盛大に開催された。研究発表に、協議に、そしてレクリエーションに、熱心に、真摯に、而も和氣に満ちた場合は將來の日本の幼児の幸福が約束され、幼稚園、保育所、公立、私立の別を越えて「如何にして幼児を」の一点に結び合つた時、將來の保育のあり方が暗示されたのであつた。フレibel先生の百年忌に斯の様な会合を持ち得たと云ふこと、特にその生涯の幕を閉じた六月と云う月に、日本のフレibel倉橋先生の記念講演を持ち得た事は此の大会を一層意義あるものにしたのであつた。

次に日程の順序に従つて簡単に大会の内容を記することとする。

## 第一日(六月一日)

午後一時開会。松本副委員長の辞に続いて、皇太后様の御逝去に対して一分間の黙

禱を捧げた。次に保育歌斉唱、委員長挨拶、経過報告と型通りに進み、文部大臣、厚生大臣、千葉県知事、千葉県教育委員会代表、成田町長の祝詞があつて、第一部を終了、第二部の表彰式に移る。表彰は関東保育連合会の申合せによつて大会開催県に於ける幼稚園、保育所に於て滿二十年以上保育に従事して居る現職者を、関東保育協議大会の名に於いて表彰するのである。被表彰者の職氏名は次の通りである。

- 成田町私立成田幼稚園顧問(五十二年)
- 山口 政子
- 成田町私立成田幼稚園教諭(三十四年)
- 滝沢 よし
- 成田町私立成田幼稚園教諭(三十三年)
- 若命 キミ
- 千葉大学教育学部附属幼稚園教諭(三十二年)
- 田辺 周
- 市川市私立自然幼稚園教諭(三十二年)
- 石田 トナ
- 佐倉町立佐倉幼稚園教諭(三十二年)
- 佐々田知恵
- 成田町私立成田幼稚園教諭(三十年)
- 船橋市立中央保育園保母(二十九年)
- 高田よしと
- 金子 かの
- 旭町私立旭稚幼稚園長(二十八年)
- 角田 澄宣
- 旭町私立旭稚幼稚園教諭(二十六年)
- 安西まさ代
- 市川市私立日の出学園幼稚科教諭(二十年)
- 土屋 まさ
- 茂原町私立高師保育園長(二十四年)
- 篠田加津子
- 浦安町立浦安小学校附属幼稚園教諭(十四年)
- 松浦 ひで
- 館山市立館山幼稚園教諭(二十三年)
- 熊井 嘉鶴
- 館山市立北条幼稚園教諭(二十二年九月)
- 山岸 ちか
- 野田市立野田幼稚園教諭(二十一年)
- 箱石 孝
- 松戸市私立有隣学園理事長(二十一年)
- エーネパウラス
- 銚子市私立銚子保育園長(二十一年)
- 上野 純良
- 小湊町私立タチバナ保育園保母(二十年)
- 石村 きよ
- 船橋市私立自然保育園長(二十年)

篠田 道子

右の方々に対し、大友委員長から賞状並にフレール館及び国民図書から奇贈の記念品の授与があり、被表彰者角田代表の挨拶があり、式を終る。

第三部に移り、フレール先生に一分間の黙禱を捧げ、研究発表を行う。発表者とその題目は

一、リズム遊びについて

東京都千代田区立番町幼稚園教諭

徳久 孝

一、新しい生活保育を志して

千葉県館山市立北条小学校附属幼稚園教諭

山岸 ちか

一、言葉に表れた幼児の情緒の一端

群馬大学学芸学部附属幼稚園教諭

鈴木 正子

一、宗教幼稚園の特質と運営方

埼玉県浦和双恵幼稚園教諭 松尾 清枝

夫々内容の充実した研究の成果を発表し、熱心に活潑な質疑応答があつて終る。

引続いて全国保育大会提出議題の審議に入り、各都県代表二名づゝからなる委員附託とする。

第二日(六月二日)

午前九時開始、神奈川・栃木・茨城各県から提出の協議題について協議する。議題と提案理由説明者は、

一、幼稚園教諭の養成促進について

宇都宮女子高等学校附設幼稚園教諭

小川 政子

一、幼稚園職員の待遇改善に関する件

水戸市立三の丸幼稚園教諭 須田 千代

一、幼稚園教諭と保育所保母免状の共通について

神奈川県渋谷町神愛保育園園長

大地 兼香

右の問題について近來にない熱意を以て

討論が行われ特に第三議題については、懸案の幼稚園と保育所とのあり方について、まで拡大討論され、文部省厚生省の係官の責任ある解答まで求められ、全国大会にまで持ち込むことになった。

続いて、会計報告、次回会場群馬県代表の挨拶、全国大会提出議題について委員代表からの発表があり、一応大会の幕を閉じた。

午後は久しぶりに倉橋惣三先生を迎えて「保育の充実」という題のもとに充実した講演を聴く。全員は足のしびれ(座つて聴

いて居つた)も忘れて全く魅せられたように聞き入つた。(講演は本誌に載録) 見学とレクリエーション。

大会が緊張したものであつただけに、レクリエーションへの期待も強く、心も浮々する。斯のような時の汽車の旅は又格別である。銚子に着くまでの約二時間、話に花が咲く。銚子についてヤマサ醤油の会社を見学し、犬吠岬の眺鷄館に着く。人よし、景色よし、酒またよし。カクシ芸の各県コンクール、地元の人々の箏、鼓、太鼓入りの大漁節、疲れも忘れ、夜の更けるのも忘れて歡を盡した。

翌日、御来光を拝し、犬吠岬の燈台からはるかにカリホルニヤの海岸をのぞみ、銚子港の鯉の山にそゞろ掃蕪の念のきざす頃解散した。三日間にわたる全期中、幸に天候にめぐまれ無事に大会を終了した事を委員の皆様と喜ぶと共に、物心両面に亘つて此の会に多大の御援助を賜つた関係各位に心から感謝の意を表して此の稿を終る。

(千葉・宮内記)